

# 研修体験記

令和6年度

鹿児島市立病院 歯科臨床研修プログラム修了生 東元 郁菜子 先生

つい2週間程前に鹿児島市立病院での研修医を終えた今、研修先を悩んでいる学生さんへ少しでもお役に立てれば、と筆を執った次第です。

思い出してみると、マッチング先を決めたのは非常に遅かったです。そもそも見学も確か8月頃で、大学の先生にどこも行かないのは勿体無いと尻を叩かれたからという理由でした。そんな私が市立病院を研修先を選び、感じたことをお伝えしたいと思います。

第一に、市立病院は鹿児島県の中核医療を担う病院であり、学校ではないということです。指導医の先生方から多くのことを教わり、勉強になる日々ですが、次の瞬間には学んだことを臨床の現場で如何に発揮し、一人の歯科医師として医療の一助となれるか、悩み試行錯誤していました。また、学生の頃、研修医の先生に何度も症例を譲っていただいた経験から、自分のぼんこつさを自覚しているが故に、少しでも経験値を上げたいという欲張りな考えもありました。実際、5月にはプレート除去の術者を務めました。歯肉切開も未経験であった私は、頗る緊張し、グローブ装着にも手こずり、タイムアウトの自己紹介では声が震えたことを鮮明に覚えています。無茶振りだと思われるかもしれませんが、教えを乞えば先生方は丁寧にレクチャーしてくださり、術後はフォローもあります。一年間の研修医生活を充実させられるかは自分次第です。

市立病院での研修中、少なからず隣の芝生は青く見えたこともあります。それは歯科研修医に同期がいなかったことです。同じ境遇の友人がいたら、と寂しく感じることもありましたが、自分の不甲斐なさに落ち込む日や学会準備で心が折れそうな時も、指導医、歯科外来のスタッフの方々に温かく支えられ、医科の研修医の友人から励まされました。感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

長くなりましたが、少しでも参考になりましたら幸いです。是非見学に足を運んでみてください。視野が広がると思います。